

道立学校における 生成 AI 利活用ガイドブック

令和 7 年（2025 年）1 月



北海道教育庁

〔はじめに〕

近年、生成AIをはじめとしたAI技術は急速に進化を遂げており、かつてないスピードで社会に普及して、既に一定数の児童生徒が何らかの形で生成AIに触れていると考えられます。

こうした状況を踏まえ、各学校においては、新たな情報技術であり多くの社会人が生産性の向上に活用している生成AIについて、「私たちと生成AIとの関係として望ましいあり方は、どのようなものなのだろうか」という視点や、近い将来生成AIを使いこなすための力を各教科等の中においても意識的に育てていくという姿勢は重要であり、今後、生成AIが更に社会生活に組み込まれていくことを念頭に置き、発達の段階や各学校段階、地域の実情等を踏まえつつ、情報モラルを含む情報活用能力の育成を一層充実させていく必要があります。

また、生成AIが社会インフラの一部となる時代において、より重要なものになるという認識の下、授業準備を含む校務において利活用することで、校務の効率化や質の向上等、教職員の働き方改革につなげていくことも期待されています。

このような中、道教委では、各学校において生成AIを利活用する際、働き方改革の実現や学習指導要領で示された資質・能力の育成に向けて、児童生徒や教職員が不安等を感じることなく、適切に生成AIに向き合い利活用することができるよう、本ガイドブックを作成しました。

学校教育関係者が生成AIを利活用するに当たっては、「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドラインVer. 2.0（令和6年（2025年）12月26日 文部科学省初等中等教育局）」とともに、本ガイドブックを活用いただきますようお願いいたします。

〔目 次〕

I 教職員が校務で生成AIを利活用する場面

- 北海道立学校 生成AIサービスの利用に係るガイドライン 2
- プロンプトの入力 5
- 校務利用での作成例 6
 - (1) 保護者向け文書
 - (2) アンケート（記述）結果のまとめ
 - (3) 議事録（要約）

II 児童生徒が学習活動等で生成AIを利活用する場面

- 北海道立学校 学習活動等における生成AIの利活用に係るガイドライン 8
- オプトアウトの設定 10
- 実践事例 12
 - (1) 生成AIの利活用に係る事前学習指導計画
 - (2) 各時間の指導計画
 - (3) 教科での活用例

III F A Q 17

IV 参考資料 18

I 教職員が校務で生成 AI を利活用する場面

○ 北海道立学校 生成 AI サービスの利用に係るガイドライン

令和6年(2024年)10月16日付け教 ICT 第361号通知「生成 AI サービスの指定の追加について」より

1 目的

生成 AI サービスの利用については、職員の業務負担軽減や生産性の向上など一定の効果が見込まれる一方で、情報の漏えいや回答内容の正確性の疑義など様々なリスクが指摘されていることから、職員による生成 AI の適正利用を図るため、注意すべき事項や有効な活用方法等についてのガイドラインを定めるもの。

2 対象生成 AI

生成 AI とは、機械的に学習した大量のデータを元に、利用者の指示で文章や画像、音声などを自動的に作り出す人工知能のことである。

このうち、本ガイドラインでは、文章の作成や要約、翻訳などで業務の効率化が期待される文章生成 AI のうち、次のものを対象とする。

なお、利用にあたって料金が発生するもの、画像や音声といった文章生成 AI 以外の生成 AI は利用を認めないものとし、利用が必要な場合は別途当課へ協議すること。

① ChatGPT (アカウントあり)

OpenAI 社のウェブサイトを利用して可能な「ChatGPT」について、アカウント登録し、入力データを学習データとして保存されない設定（オプトアウト設定）を有効にした上での利用。

オプトアウト設定以外の設定変更を行わないでください。

② Copilot (アカウントなし)

インターネットブラウザ「Microsoft Edge」に搭載されている検索サービスに附属している AI チャット「Copilot」のアカウント登録をしない利用（ゲストユーザとして利用）。

チャットでの回答時に根拠となるウェブサイトが表示されます。

③ Gemini (アカウントあり)

Google アプリとして利用可能な生成 AI サービス「Gemini」について、hokkaido-c.ed.jp のアカウントにログインした上での利用。

3 本ガイドラインの適用範囲

道立学校職員が、北海道教育情報通信ネットワーク（ほっかいどうスクールネット）接続端末を使って、校務系及び学習系で生成 AI を業務に利用する場合に適用する。

4 利用条件

(1) 利用希望者は、事前にオンデマンド研修を受講すること。

生成 AI サービスの利用にあたっては、利用者が留意すべき基本的事項や注意事項を理解するため、必ず事前に ICT 教育推進局 ICT 教育推進課長が提供するオンデマンド研修を受講してください。

(2) オンデマンド研修を受講後、別紙1「利用チェックシート」を情報セキュリティ管理者へ提出し、利用承認を受けること。

利用希望者は、オンデマンド研修を受講後、「利用チェックシート」を各所属の情報セキュリティ管理者（学校長）に提出し、情報セキュリティ管理者による利用承認を受けた上で利用してください。

なお、承認を受けた者が異動した場合は、新所属において再度利用チェックシートを提出し、利用承認を受けてください（オンデマンド研修を受講する必要はありません）。

5 データ入力に際して注意すべき事項

(1) 個人情報をはじめ法令・契約により非公開とされている情報等を入力しないこと。

生成 AI サービスの利用にあたっては、情報漏えいのリスクがあるため、個人情報をはじめ法令・契約により非公開とされている情報、直ちに一般公開することを前提としない情報を入力しないでください。

(2) 道、道教委及び道立学校の業務であるとわかる情報を入力しないこと。

生成 AI に入力するデータは、明らかに道、道教委及び道立学校の業務だとわからないよう、可能な限り抽象化してください。

(3) 業務以外の目的で利用しないこと。

(4) 入力データは海外サーバに保存されることに留意すること。

海外サーバに保存されている情報に対し、現地の法令等が適用され、現地の政府等による検閲や接収を受ける可能性があることに留意して利用してください。

6 回答の利用に際して注意すべき事項

(1) 得られた回答の根拠等を確認すること。

大規模言語モデル（LLM）の原理は、「ある単語の次に用いられる可能性が確率的に最も高い単語」を出力することで、もっともらしい文章を作成していくものです。

書かれている内容には正確ではない情報が含まれている可能性があります。

このため、回答を利用するにあたっては、必ず根拠や裏付けを確認してください。

(2) 得られた回答に権利侵害等がないかを確認すること。

回答が既存著作物や名称、キャッチコピーなどと同一・類似している場合は、当該回答を利用（複製や配信等）する行為が著作権や商標権を侵害する可能性があります。

このため、回答を利用する場合には、インターネット検索等により、回答が既存著作物等に類似していないかの調査を行うほか、特許情報プラットフォーム (<https://www.j-platpat.inpit.go.jp>)等により、登録商標の調査を行ってください。

(3) 得られた回答に差別用語や倫理に反する表現が含まれていないか確認すること。

回答には不適切や偏った内容が含まれている場合があります。

このため、回答を利用する場合には、そうした観点で問題がないかどうかを確認してください。

(4) 回答される情報は、過去の学習データに基づく情報であり、最新の情報ではないことに留意すること。

7 有効な活用方法

生成 AI に入力する内容（プロンプト）によって、回答結果が異なることがあり、生成 AI から適切な回答を引き出すために、入力内容を具体的にするなど工夫すること。

生成 AI から適切な回答を引き出す方法として、最適な指示を入力する必要があります。

その例として、①質問の条件（目的、背景、役割）を明確にする、②さらに条件を追加する、③回答の形式を指定する、などがあります。

参考 P. 5 「○ プロンプトの入力」
P. 6 「○ 校務利用での作成例」

8 管理監督責任

(1) 情報セキュリティ管理者は、所属職員に生成 AI サービスを利用させる場合の管理責任があることを踏まえ、次の各項に留意して、適正な利用となるよう指導・監督に努めること。

- ・ 所属職員から利用申請があった場合は、業務上の必要性等を判断のうえ利用を承認し、別紙 2 「生成 AI サービス利用者管理台帳」に記録すること。
- ・ 本ガイドラインに沿った利用を徹底すること。

(2) 情報漏えいをはじめ情報セキュリティ上の問題等が発生した場合は、直ちに運用責任者（ICT 教育推進課長）に報告し、利用を停止すること。

9 その他

(1) 職員の利用状況やサービスの提供状況によっては、利用の停止等を行う場合があることに留意すること。

(2) 利用にあたっての疑義が生じた場合は、別途運用責任者へ協議すること。

○ プロンプトの入力

生成AIのプロンプトとは、生成AIに与える指示/命令文のことで、例えば、「以下の文章を要約して」などです。「プロンプト」という指示/命令文を的確に入力することで、利用者が期待する出力（回答）を得ることができます。

① プロンプト（指示/命令文）の入力のポイント（例）

- 〔役割を与える〕 生成 AI は指定した人物像になりきった回答ができます。また、役割を与えることで、回答を生成するための視点や専門性をコントロールします。
- 〔指示の明確化〕 「～を作成してほしい」「～について説明しなさい」など、何をしてもらいたいのかを明確に伝えます。
- 〔条件の補足〕 「文字数」「図の添付」「説明対象」「表で作成」「です・ます調」など、細かい条件を補足します。

* 区切り記号を使い、書き分けることで、期待する出力（回答）を得ることができます。

② プロンプトの入力内容に対する出力（回答）結果の比較

プロンプトの入力内容

生成 AI とは何ですか

生成 AI の出力（回答）

生成 AI (Generative AI) とは、人工知能 (AI) の技術を用いて、新しいデータやコンテンツを生成することを目的とした AI システムです。この技術は、テキスト、画像、音声、動画、3D モデルなど、さまざまな形式のデータを作り出す能力を持っています。

生成 AI の仕組み

生成 AI は、大量のデータを学習してそのパターンを理解し、学習した情報を基に新しいコンテンツを作り出します。主に以下の技術が使われます。

1. 大規模言語モデル (LLM: Large Language Model)
自然言語処理に特化した AI で、大量のテキストデータを学習し、人間のような文章を生成します。
例: OpenAI の ChatGPT や Google の Gemini。
2. GAN (敵対的生成ネットワーク)
・2つの AI モデル（生成器と識別器）が互いに競い合うことで、リアルなデータを作成します。
(略)

生成 AI の具体例

1. テキスト生成
・文章作成: ニュース記事、ブログ、詩などを生成。
・翻訳や要約: テキストを簡潔にしたり他言語に変換。
2. 画像生成
・イラストやデザイン、写真のような画像を作成。
(略)

生成 AI の特徴と利点

- ・創造性の拡張: 人間が思いつかないアイデアを提示。
- ・効率向上: 時間やコストを削減しながら高品質なコンテンツを生成。
(略)

生成 AI の課題と懸念

1. 倫理的な問題
・フェイクニュースや偽情報の生成。
・不適切なコンテンツが作られるリスク。
2. 著作権
・学習に使用されたデータの権利問題。
3. 偏り (バイアス)
・学習データに偏りがあると、生成物も偏る。
(略)

プロンプトの入力内容

役割
あなたは情報教育担当教員です
指示
生成 AI とは何か中学生が理解できるように説明しなさい
条件
・文字数は 300 字以内
・イメージできる図を添付

生成 AI の出力（回答）

生成 AI とは？

生成 AI は、コンピューターがたくさんの情報を学んで、新しいものを作る技術です。例えば、本をたくさん読んだ AI は自分で新しいお話を作れたり、たくさんの絵を見た AI は新しい絵を描くことができます。

この仕組みは、AI が「どんなパターンがあるか」を学び、それを使って新しいアイデアを生み出しているからです。たとえば、「未来の学校を想像して」と AI にお願すると、未来の学校の絵を描いてくれるかもしれません。

でも AI は、学んだことをもとに動いているだけなので、間違ったり、人間のように細かい工夫をするのは苦手なこともあります。そのため、AI が作ったものを使うときは確認が大切です。

条件 300 字以内 (出力: 284 字)

以下の図は、AI が学んだことを使って新しいアイデアを作り出している様子をイメージしています。



条件
イメージできる図

この図は、生成 AI が学んだことを使って新しいお話や絵を作っている様子を表しています。本や道具が周りあって、未来の都市やストーリーを考えるロボットが描かれています。生成 AI がどのように活躍しているか、イメージしやすいですね！

○ 校務利用での作成例

授業準備や各種文書作成を含む校務において生成AIを利活用することで、業務の効率化や質の向上等、教職員の働き方改革につなげていくことが期待されます。また、教職員自身が生成AIに慣れ親しみ、利便性や懸念される点、賢い付き合い方などを知っておくことは、児童生徒の学びをより高度化する観点からも重要です。

(1) 保護者向け文書

Chat GPT 使用

プロンプトの入力内容

役割
あなたは高等学校の校長です

命令
生徒が学校で生成 AI を使用するには生徒の保護者の同意が必要のため、同意書のテンプレートを作成しなさい

条件

- ・ A 4 サイズで作成
- ・ 関係法令を遵守して活用することを明記
- ・ 授業での活用例を明記
- ・ 生徒の学年・氏名、保護者の氏名、同意の可否の記入欄

生成 AI の出力 (回答)

生成 AI 使用する保護者同意書

〇〇高等学校

時下ますます清栄のこととお喜び申し上げます。このたび、本校では教育の一環として生成 AI を授業や学習活動に活用する取組を行います。生成 AI は、生徒の思考力・表現力の向上や効率的な学習補助に寄与する一方、使用においては適切な運用と指導が必要とされます。つきましては、次の内容をご確認いただき、ご同意いただける場合は必要事項をご記入の上、本書をご提出ください。

記

- 利用目的および活用例**
生成 AI 利用の目的
 - ・ 生徒の発想力や問題解決能力の向上
 - ・ 学習内容の理解促進および補助
 - ・ 文章表現力や批判的思考力の育成
 授業での活用例
 - ・ レポート作成や文章構成の検討
 - ・ 調べ学習での質問応答やアイデア整理
 - ・ 作文練習やフィードバック提供
 - ・ 数学や科学の問題解決のためのヒント提供
- 使用に関する注意事項**
 - ・ 個人情報（氏名、住所、電話番号など）を入力しないよう指導します。
 - ・ AI の情報を過信せず、生徒自身で確認するよう指導します。
 - ・ 関係法令（例：個人情報保護法、著作権法）を遵守します。
- 同意内容**
以下の内容をご確認ください。
 - ・ 本校が教育目的で生成 AI を使用することを理解し、同意します。
 - ・ 生徒が適切に使用するよう家庭でも指導します。
 - ・ 学校の指導方針および関連法令に基づく活用を承諾します。
- 記入欄**
 - ・ 生徒氏名（フリガナ）： _____
 - ・ 学年・クラス： _____
 - ・ 保護者氏名（フリガナ）： _____
 - ・ 以下にチェックを入れてください：
 同意する 同意しない

記入日： ____年 ____月 ____日

必須 教職員による確認・推敲

(2) アンケート（記述）結果のまとめ

Chat GPT 使用

プロンプトの入力内容

役割
あなたは学校の研修担当者です

命令
研修後に参加者に対して実施した次のアンケート結果について、その他を含む 5 つの項目に分類し、表形式で示しなさい

5 つの項目

1. 賛辞と感謝の表明
2. 研修内容や進行に関する提案
3. 操作に関する評価
4. 今後取り組みたいこと
5. その他

条件

- ・ 各項目に該当するアンケート数を表に明記
- ・ 各項目で特に多かった意見を簡条書きで 3 点明記

以下、アンケート記述

- ・ ○○○

生成 AI の出力 (回答)

アンケート結果の分類と要約

以下の表に、アンケート結果を 5 つの項目に分類し、それぞれの該当数と主要な意見を記載しました。

項目	該当数	主要な意見 (上位 3 点)
1. 賛辞と感謝の表明	12 件	- 「丁寧でわかりやすい説明で大変勉強になった」 - 「講座を受講してよかった」 - 「ありがとうございました」
2. 研修内容や進行に関する提案	5 件	- 「対面講習も希望」 - 「途中でわからなくなることがあるので具体的な事例が欲しい」 - 「研修資料の公開を希望」
3. 操作に関する評価	9 件	- 「具体的な操作方法を学べて良かった」 - 「スプレッドシートの利点や基本操作を学べた」 - 「共同編集の利便性が理解できた」
4. 今後の取り組みたいこと	28 件	- 「音楽や校歌に Google ツールを活用したい」 - 「フォームを活用してアンケートを実施したい」 - 「ポータルサイトを作りたい」
5. その他	6 件	- 「職員間での共有の仕方を試行錯誤していきたい」 - 「ペーパーレス化や働き方改革に活かしたい」 - 「異動先でも活用したい」

詳細な説明

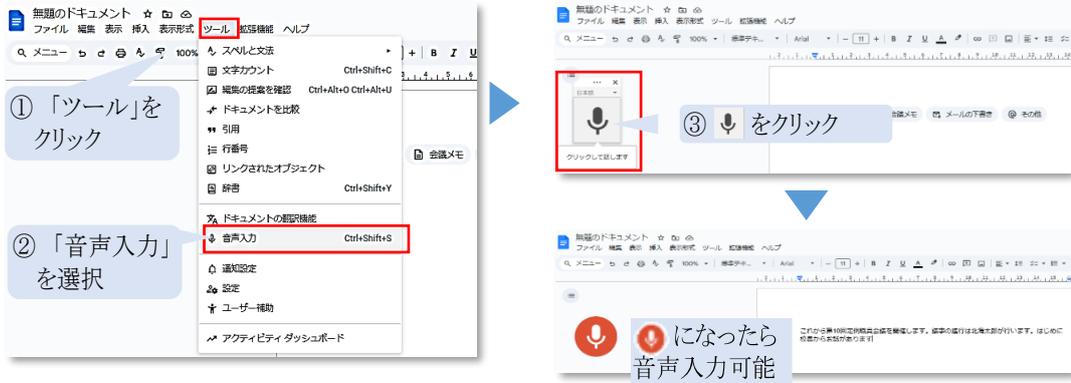
- 賛辞と感謝の表明**
多くの参加者が講座の説明や内容に対して感謝の意を示しており、特に「丁寧でわかりやすい」といった評価が多数見られました。
- 研修内容や進行に関する提案**
研修の進行に関しては、具体例を挙げたり、対面講習の実施を求める声が多く挙がっていました。また、研修資料の提供も期待されています。
- 操作に関する評価**
Google フォームやスプレッドシートなどの具体的な使い方や、共同編集の利便性を学べたというポジティブな声が多く寄せられました。
- 今後の取り組みたいこと**
特に授業や校務に Google ツールを積極的に活用したいという意欲が多く、ポータルサイトやアンケート機能の利用に関する具体的な計画が述べられていました。
- その他**
異動先での利用や職員間の連携、さらには働き方改革やペーパーレス化を目的とした活用を挙げる声も見られました。

必須 教職員による確認・修正

(3) 議事録 (要約)

会議等

Google ドキュメントの音声入力で文字起こし



文字データ完成

注意

個人情報や機微情報の
確認・除外してから
生成 AI を利活用する

教育課程部です 上から始めます、お願いします で えっと かつまんでご提案いただけましたら幸いです お願いします まず、行事予定からです もう12月に提案済みですが1個だけ えっと学力向上のええとコーディネーターから依頼があって強化部会を1箇所いれてほしいということで12月18日の職員集合の時に20分間入れておきますので えっと 公開授業を含めて後期前半の振り返りと後期後半に向けてということで入れておきますので 短時間で終わるようにお願いします 1月も提案済みで大きく変わっていません 3月の卒業式に向けて職員会議を入れるようにしておりますのでもし都合がありましたらお知らせください(後略)

地域連携部からお願いします 日程等を検討していただこうと思っています 中体連とか新人戦と絡みますので地域の方に日程を書いてもらうという風に考えています それから 下の3点については今検討しているところです すいませんお願いします レジュメ続きをご覧ください(後略)

生成 AI の利活用 (議事録の要約)

Chat GPT 使用

プロンプトの入力内容

役割
あなたは学校の会議録作成担当者です

命令
次の会議記録の内容を要約しなさい

条件
各部ごとに内容を要約

以下、会議記録

教育課程部です 上から始めます、お願いします で えっと かつまんでご提案いただけましたら幸いです お願いします まず、行事予定からです もう12月に提案済みですが1個だけ えっと学力向上のええとコーディネーターから依頼があって強化部会を1箇所いれてほしいということで12月18日の職員集合の時に20分間入れておきますので えっと

生成 AI の出力 (回答)

会議記録の要約

教育課程部

- 行事予定について
 - 12月:提案済み。ただし、学力向上コーディネーターの依頼で「強化部会」を12月18日の職員集合時に20分間追加。後期前半の振り返りと後期後半への準備が目的。短時間で終了予定。
 - 1月:既に提案済みで大きな変更はなし。
 - 3月:卒業式に向け、職員会議を予定。都合がある場合は事前に知らせるよう依頼。

地域連携部

- 日程調整
 - 中体連(中学校体育連盟)や新人戦の日程と調整中。地域の方に日程表を記入してもらう計画。
- 検討中の課題
 - 検討中の具体的事項についてはレジュメ参照。

進路指導部

- 規定について
 - 校内推薦委員会と調査書作成委員会の規定を別添資料で配布。詳細は資料を確認するよう依頼。

必須 教職員による精査・修正

議事録完成

II 児童生徒が学習活動等で生成 AI を利活用する場面

○ 北海道立学校 学習活動等における生成 AI の利活用に係るガイドライン

令和7年(2025年)1月31日付け教ICT第548号通知「北海道立学校 学習活動等における生成AIの利活用に係るガイドライン」についてより

1 目的

生成AIが急速に進化、普及している中で、指導等における利活用の方向性を示す必要があり、授業等における児童生徒による生成AIの適切な利活用の実現に向けて、教職員が特に指導上留意すべき事項についてまとめたもの。

- ・授業等で生成AIを利活用するに当たっては、「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン (Ver.2.0)」(令和6年12月26日 文部科学省初等中等教育局)の内容を十分に踏まえつつ、以下の利用条件等に留意しましょう。
- ・ブラウザや学習支援ソフトウェア、普段利用する検索エンジンに組み込まれた生成AIサービス等についても同様と考えて取り扱しましょう。

2 利用条件

(1) 児童生徒の発達段階や情報活用能力の育成状況に十分留意しつつ、リスクや懸念への対策を講じた上で利活用を検討すること。

利活用の適否の判断に際しては、学習指導要領に示す資質・能力の育成につながるか、教育活動の目的を達成する観点で効果的であるかを確認すること。

- ・児童生徒の学びにおいて生成AIを使うことが目的とならないようにしましょう。

(2) 生成AIサービスの提供者が定める最新の利用規約を確認・遵守すること。

- ・年齢制限や保護者の同意、生成物のライセンスの所在など、生成AIサービスの提供者が定める最新の利用規約を必ず確認し、遵守しましょう。

(3) 児童生徒のアカウント登録をした後、オプトアウト設定をすること。

- ・情報セキュリティの確保の観点から、入力した指示文(プロンプト)の内容を生成AIの機械学習に利用させない設定(オプトアウト設定)をした上で利活用しましょう。

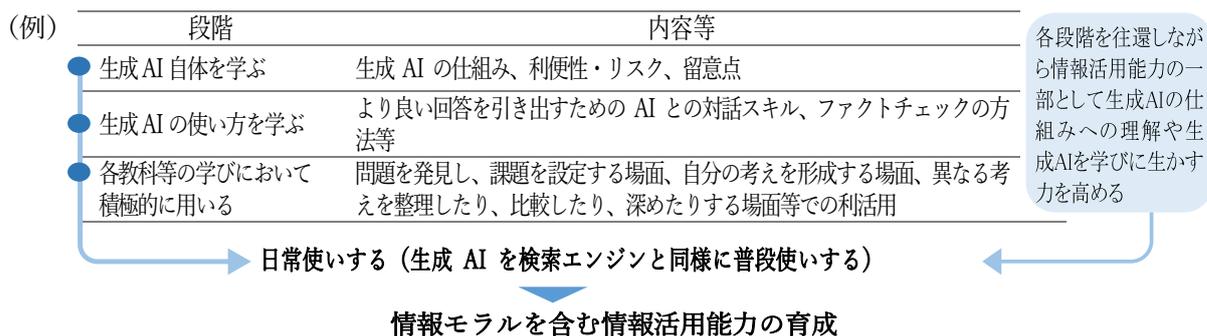
* オプトアウト方式 入力内容を生成AIの機械学習に利用させる設定が初期値となっていて、利用させたくない場合には、個別に設定する方式

参考 P.10 「○ オプトアウトの設定」

(4) 生成AIを各教科等の学びで用いる前に、生成AIの性質やメリット・デメリット、情報の真偽を確かめる、自己の判断や考えが重要であることを十分に認識できるような使い方等に関する学習(事前学習)を実施すること。

- ・生成AIに全てを委ねるのではなく、自己の判断や考えが重要であることを十分に認識できるか、生成AIの出力を基に深い意味理解を促し、思考力を高める使い方ができるかなどについて見極めることが、事前学習のねらいとなります。

- ・小学校段階の児童が直接利活用することについては、発達段階等を踏まえたより慎重な見極めが必要となります。



参考 P.12 「生成AIの利活用に係る事前学習指導計画」 リーディングDXスクール事業 生成AIパイロット校 北海道帯広柏葉高等学校の実践

(5) 児童生徒が学校外で生成AIを利活用する可能性も踏まえ、生成AIの不適切な利活用が行われないよう、保護者に対し周知し、理解を得るとともに、保護者の同意を確認すること。

- ・児童生徒に利活用させる場合、生成AIサービスを利用する前に、生成AIの利活用目的やその様態等の情報を提供し、保護者の理解を得ましょう。
- ・保護者の同意を確認する際は、「保護者承諾書（参考例）」を参考にしましょう。
- ・保護者の経済的負担に十分に配慮して生成AIツールを選択しましょう。

参考 [Download : 保護者承諾書\(参考例\)](#)

3 データの入力及び出力（生成物）の利用に際して注意すべき事項

- (1) プロンプトに氏名や写真等の個人情報を入力しないよう十分に指導すること。
- (2) 著作権の侵害につながるような使い方をしないよう十分に指導すること。

- ・個人情報保護法等の関係法令を遵守した利活用が前提となります。
- ・意図せず他人の著作権を侵害することのないよう、生成AIと著作権制度に関して正しく理解した上で利活用しましょう。
- ・児童生徒が学習課題に生成AIの回答を引用・参考にしている場合、出典・引用を記載させましょう。

(3) 生成AIが出力した情報の真偽を確かめる（ファクトチェック）方法を指導すること。

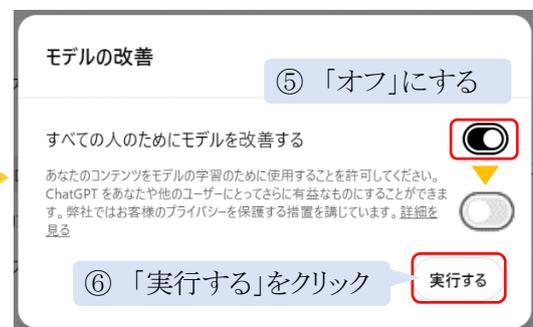
- ・ファクトチェックについては、厳密な意味での情報の真偽の確認は児童生徒には難しい場合もありますが、複数の方法（情報の発信者、発信された時期、内容、他の情報と比較する等）を組み合わせ、情報の信ぴょう性を確認することが必要であることを理解することや、生成AIの出力からファクトチェックを要する箇所を見いだす力を養うことが重要です。
- ・生成AIの出力（生成物）はあくまでも「参考の一つである」「最適解とは限らない」ことを認識するとともに、リスクや懸念を踏まえつつ、最後は人間が判断し、生成AIの出力結果（生成物）を踏まえた成果物に自ら責任を持つという基本姿勢が重要です。

○ オプトアウトの設定

(2024.12月現在の設定等)

個人情報やプライバシーを保護する観点から、入力した指示文（プロンプト）の内容が生成AIに機械学習されないよう、アカウントを登録した後、すぐに設定の変更・確認をしましょう。

① Chat GPTの例



これでプロンプトに入力した内容が、
生成 AI の機械学習に利用されない設定
に変更されました



② Geminiの例



② 「.ed.jp アカウント」の場合、「オフにする」の文字色がグレーで操作できない状態になっているかを確認

*この状態で機械学習に利用されない設定になっています。

③ Microsoft Copilotの例



Copilot を試す

注意 「Copilot」は、オプトアウトの設定ができません。
(2024.12月時点)

*サインインせずに使用します。

Copilot を試す

注意 「Copilot を試す」では、文字数や一度にできる会話の回数など制限があります。

○ 実践事例

児童生徒に生成AIを利活用させる場合、事前に生成AIの性質やメリット・デメリット、情報の真偽を確かめる、自己の判断や考えが重要であることを十分に認識させるような使い方等に関する学習を実施することが、ガイドラインに示されています。

令和6年度リーディングDXスクール事業 生成AIパイロット校である帯広柏葉高等学校は、ガイドラインの内容を踏まえ、事前学習モデルを開発・実践しました。今後、各教科等で生成AIの利活用を考えている学校については、本モデルを参考に事前学習を必ず実施しましょう。

(1) 生成AIの利活用に係る事前学習指導計画 (リーディングDXスクール事業 生成AIパイロット校 帯広柏葉高等学校)

〔単元の目標・計画〕

[単元計画 Download](#)

4時間扱い

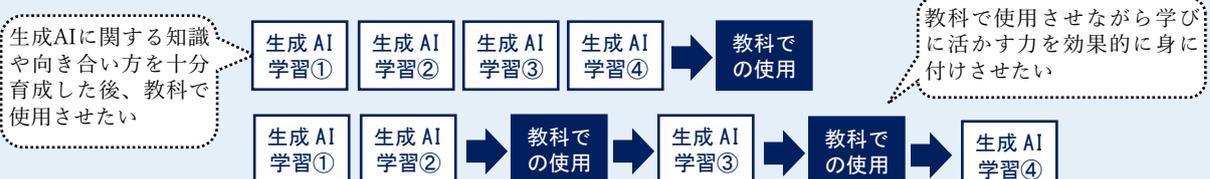
単元目標

- 生成AIが、どのような仕組みで動いているかについて理解する。①
- 生成AIの性質やメリット・デメリットについて理解する。①
- より精度の高い結果が得られる指示文(プロンプト)を作成する方法を理解する。②
- 生成AIが作成した回答について批判的に思考し、真偽を判断する。また、必要に応じて適切な修正に向けて思考、判断する。②
- 生成AIを、今後の学びや社会生活において活かしていくこととする態度を養う。③
- 生成AIに全てを委ねるのではなく自己の判断や考えが重要であるという基本姿勢を身に付ける。③

目標は育成を目指す資質・能力の3つの柱で整理し、内容を具体化

単元計画	一斉	① 生成AI自体を学ぶ 【Keyword】 生成AIの仕組み 利便性・リスク 留意点 透明性に関する概念 信頼性に関する概念	情報化社会と生成AI 【20Min.】 「私たちが生成AIの関係として望ましいあり方はどのようなものだろうか」 ・単元全体に関わる問いの提示、現時点での学習者の考えを表現する活動 「生成AIはどのような仕組みで動いているのだろうか」 ・生成AIの概要(機械学習とビッグデータ)【10Min.】 ・生成AIの種類(様々な生成AIと、それぞれの特性)【10Min.】	生成AIの仕組みや特徴、使い方の理解を図り	
		② 生成AIの使い方を学ぶ 【Keyword】 AIとの対話スキル ファクトチェックの方法	指示文(プロンプト)の工夫 【25Min.】 「より良い回答を引き出すために、私たちは生成AIとどのように対話すればよいのだろうか」 ・望ましいプロンプトと望ましくないプロンプトを比較する活動【15Min.】 ・提示された回答から、指示文(プロンプト)を見いだす活動【10Min.】 ・(発展学習課題) Microsoft ツールキット使用		
		ファクトチェック 【25Min.】 「私たちが、生成AIの回答をどのように取り扱うべきなのだろうか」 ・提示された回答から、誤り・事実と全く異なる内容、文脈と無関係な内容を見いだす活動【15Min.】 ・ファクトチェックの方法についての説明【10Min.】 ・(発展学習課題) Microsoft ツールキット使用			
	個別	② 生成AIの使い方を学ぶ 【Keyword】 AIとの対話スキル ファクトチェックの方法	演習(選択式) 【50Min.】 「どのように生成AIを使えば、私たちはよりよく学ぶことができるのだろうか」 演習1 ・グループの考え、アイデアを出す活動を設定【30Min.】 ・途中段階で、生徒同士で一定の議論やまとめをした上で、生成AIを使用 ・足りない視点を見つけ、議論を深める ・議論を深めた過程・結果を整理 演習2 ・テーマに沿った文章を作成する活動を設定【30Min.】 ・作成した文章を修正させる際に、生成AIを使用 ・生成AIに修正させたものを「たたき台」として複数回推敲し修正 ・より良い文章にした過程・結果を整理 クラウドを活用して演習結果の共有【20Min.】	生成AIを学びに活かす力を段階的に高め	
		③ 生成AIを使う際の情報モラル 【Keyword】 情報倫理	生成AIをめぐる社会的論議 【30Min.】 「私たちが生成AIを積極的に活用すべきなのだろうか」 ・譲り肯定論及び否定論を提示し、学習者自身が主体的に考え、議論する活動 不適切又は不正な行為と自分のためにならないこと 【20Min.】 「私たちが生成AIの関係として望ましいあり方はどのようなものだろうか」 ・単元の学習を振り返り、情報モラルを含めた学習者の考えを表現する活動 【期待したい学習者が形成する考え】 「どのような学習者でありたいのか」 ・「参考の一つに過ぎない」ことの十分な認識 ・最後は自分で判断するという基本姿勢 ・自己の成長を阻害する可能性があること		生成AIとの向き合い方を考える
		③ 生成AIを使う際の情報モラル 【Keyword】 情報倫理	生成AIをめぐる社会的論議 【30Min.】 「私たちが生成AIを積極的に活用すべきなのだろうか」 ・譲り肯定論及び否定論を提示し、学習者自身が主体的に考え、議論する活動 不適切又は不正な行為と自分のためにならないこと 【20Min.】 「私たちが生成AIの関係として望ましいあり方はどのようなものだろうか」 ・単元の学習を振り返り、情報モラルを含めた学習者の考えを表現する活動 【期待したい学習者が形成する考え】 「どのような学習者でありたいのか」 ・「参考の一つに過ぎない」ことの十分な認識 ・最後は自分で判断するという基本姿勢 ・自己の成長を阻害する可能性があること		

「各教科等の学びにおいて積極的に用いる場面」の前に4時間全てを実施する方法や、各教科で用いる場面の前後に学習を組み込む方法など、各学校のねらいに応じた意図的な学習計画が考えられます。



(2) 各時間の指導計画

各時間の指導計画 Download

〔1/4 時間目〕

- 単元名 「生成 AI を学ぶ」
- 単元の目標及び単元の学習計画 (別紙の通り)
- 本時 (第1次1時間目)
 - 本時の目標
 - 生成 AI が、どのような仕組みで動いているかについて理解する。
 - 生成 AI の性質や、メリット・デメリットについて理解する。

総合的な探究の時間授業案	日時：2024年9月6日(金)	生徒：●学年(●名)
	教室：●●●●教室	授業者：●●●●
授業担当が、オンラインで全クラスに配信する。 各クラスには、2名の教員を配置し、生徒の活動支援を行う。		

学習項目	学習者の活動	学習形態	授業者から学習者への働きかけや支援	評価様式(評価力)
10Min.	○ 単元を通して学ぶ内容の見直しを持つ。 【単元全体に関わる問い】 「私たちと生成 AI の関係として望ましいあり方は、どのようなものだろうか」 ○ 現時点で考える、単元全体に関わる問いの解を表現する。(フォームに入力)	一斉 個人	・単元学習計画を使用し、学習の全体像を説明する。 ・単元全体に関わる問いを提示し、単元の終末に問いに対する納得解を表現することを学習者に求める。	
導入 5Min.	本時の問いの確認(学習の見直し) 生成 AI に「触れる」	個人 個人	・本時の問いを提示し、本時の終末に問いに対する納得解を表現することを学習者に求める。 ・オプトアウト設定の重要性を説明する。	
展開 30Min.	生成 AI の概要、種類、メリットとデメリット ○ 以下の内容について説明を聞く。 1 「生成 AI の仕組み」 大規模言語モデルと機械学習の理解と「訓練士」としての使用 2 「生成 AI の種類」 主な生成 AI と、それぞれの特性 3 「生成 AI の活用方法」 有効活用できる場面とできない場面 4 「生成 AI の注意点」 偽の情報、個人情報、AI における偏見、AI の出力、AI との関係、セキュリティ 5 「メッセージ」 欲しいもの・知りたいことを持つ(指示待ち時代の終焉)、欲しいもの・知りたいことの言語化能力(「空想」では動かない)、AI に適切に指示できるスキル、AI が言うことを理解し見出しするスキル(AI に完璧を求めないこと、広い教養と価値観が必須)	一斉	・担当者が作成したスライドを使用して説明する。	
終末 5Min.	本時の問いの解 【問い】「生成 AI はどのような仕組みで動き、どのような性質を持っているのだろうか」 ○ 学習内容を振り返り、本時の問いの解を表現する。(フォームに入力) 集約した多数の意見を、生成 AI を活用して整理する。	個人	・自分の考えの変容を客観的に捉えさせる。	【知】 スプレッドシート 記載内容

- ※学習形態 ① 一斉：授業者が一方的に学習者に説明する。
② 個人：授業者の指示により、学習者が個人で思考・判断・表現する。
③ グループ：授業者の指示により、複数の学習者で構成された集団で思考・判断・表現する。
④ 自由選択：学習の手引をもとに学習者が学習形態(「個人」または「協働(他者参照・ペア・グループ)」)を自己判断・自己決定する。

〔2/4 時間目〕

- 単元名 「生成 AI を学ぶ」
- 単元の目標及び単元の学習計画 (別紙の通り)
- 本時 (第2次1時間目)
 - 本時の目標
 - より確度の高い結果が得られる指示文(プロンプト)を作成する方法を理解する。
 - 生成 AI が作成した回答について批判的に思考し、真偽を判断する。また、必要に応じて適切な修正に向けて思考、判断する。

総合的な探究の時間授業案	日時：2024年9月●日(●)	生徒：●学年(●名)
	教室：●●●●教室	授業者：●●●●
授業担当が、オンラインで全クラスに配信する。 各クラスには、2名の教員を配置し、生徒の活動支援を行う。		

学習項目	学習者の活動	学習形態	授業者から学習者への働きかけや支援	評価様式(評価力)
導入 5Min.	本時の問いの確認(学習の見直し)			
展開 40Min.	指示文(プロンプト)の工夫 ○ 望ましいプロンプトと望ましくないプロンプトを比較する活動(20Min.) Step 1 プロンプトを入力してみる ・自分が知りたいことを入力し、生成された回答を確認する Step 2 良いプロンプトの要素とは何か ・検索とプロンプトの違い、プロンプトエンジニアリング、良いプロンプトの要素についての説明を聞く Step 3 修正したプロンプトを入力してみる ・良いプロンプトの要素に関する説明を踏まえ、Step 1 で入力したプロンプトを修正し、入力する。 Step 4 回答を比較する ・生成された回答が、どのように変化したかを確認する。 ○ 誤りや事実と全く異なる内容を含む回答をもとに、考えを形成する活動(10Min.) ・このような回答が生成されることを踏まえ、以下の論点でディスカッションを行う。 論点の例 ・どの部分を確認する必要があるのか ・何を促すように修正すべきなのか など ○ ファクトチェックの方法についての説明(5Min.) ・授業者の説明を聞き、ファクトチェックの概念を理解する。 ・生成 AI に全てを委ねるのではなく、最後は自己の判断や考えが必要であることを理解する。 ○ 著作権についての説明	自由選択 一斉 一斉	・本時の問いを提示し、本時の終末に問いに対する納得解を表現することを学習者に求める。 ・担当者が作成したスライドを使用して説明する。 ・以下の2点について、学校の指針として示す。 ① 生成 AI 活用時は、情報の真偽を確認する必要がある。 ② 特に公開資料を作成する際生成 AI を活用した場合は、複数の信頼性・複数メディアを使用したファクトチェックを行う。また、AI とのやりとりの過程を参考資料として添付することや、引用・参考として明示する。 ・担当者が作成したスライドを使用して説明する。	【他者の考えや学習で使用した資料を参照する。授業者も含めた他者と相談する。個人で思考する等、様々な方法があり、自己判断・自己決定することが大切であることを説明する。】
終末 5Min.	本時の問いの解 【問い】「より良い回答を引き出すために、私たちは生成 AI とどのように対話すればよいのだろうか、また、私たちは、生成 AI の回答をどのように取り扱うべきなのだろうか」 ○ 学習内容を振り返り、本時の問いの解を表現する。(スプレッドシートに入力)	自由選択	・自分の考えの変容を客観的に捉えさせる	【知(技)】 スプレッドシート 記載内容

〔3 / 4 時間目〕

- 単元名 「生成 AI を学ぶ」
- 単元の目標及び単元の学習計画 (別紙の通り)
- 本時 (第2次2時間目)

総合的な探究の時間授業案	日時：2024年9月●日(●)	生徒：●学年(●名)
	教室：●●●●教室	授業者：●●●●

- 本時の目標
 - より精度の高い結果が得られる指示文(プロンプト)を作成する方法を理解する。
 - 生成 AI が生成した回答について批判的に思考し、真偽を判断する。また、必要に応じて適切な修正に向けて思考、判断する。
 - 生成 AI を、今後の学びにおいて活かしていこうとする態度を養う。
- 学習の展開

学習項目	学習者の活動	学習形態	授業者から学習者への働きかけや支援	評価 (評価)
導入 5分	本時の問いの確認 (学習の見直し)			
展開 40分	生成 AI を活用する 学習場面のロール プレイ	個人 グループ グループ (個人)	・本時の問いを提示し、本時の終末に問いに対する納得感を表現することを学習者に求める。 ・生成 AI を活用し、自論を形成しても良いことを伝える。 ・前時の学習内容をいかしたプロンプトの入力が難しいグループに対して、入力支援する。 ・生成 AI との「壁打ち」を複数回行うことを推奨する。 ・プロンプトや生成 AI の回答を記録する場を設けることを伝える。 ・特に生成 AI にどのような影響を受けたのかについて、重点的に省察する。	
	・現時点で考える、本時の問いの解を表現する。(スプレッドシートに入力) ・本時の学習の見直しを持つ。	個人		
終末 5分	本時の問いの解	自由選択	・自分の考えの変容を客観的に捉えさせる。 他者の考えや学習で使用した資料を参照する。授業者も含めた他者と相談する等、様々な方法があり、自己判断・自己決定することが大切であることを説明する。	【思】 スプレッドシート 記載

〔4 / 4 時間目〕

- 単元名 「生成 AI を学ぶ」
- 単元の目標及び単元の学習計画 (別紙の通り)
- 本時 (第3次1時間目)

総合的な探究の時間授業案	日時：2025年●月●日(●)	生徒：●学年(●名)
	教室：●●●●教室	授業者：●●●●

- 本時の目標
 - 生成 AI を、今後の学びや社会生活において活かしていこうとする態度を養う。
 - 生成 AI に全てを委ねるのではなく自己の判断や考えが重要であるという基本姿勢を身に付ける。
- 学習の展開

学習項目	学習者の活動	学習形態	授業者から学習者への働きかけや支援	評価 (評価)
導入 10分	(予備調査) 本時の問いの確認 (学習の見直し)	個人	・前日にフォームで回答させる。	
展開 25分	生成 AI をめぐる 社会的論議	個人 自由選択 自由選択	・予備調査の結果を発表する。 ・「学習の手引」を配布し、要点を説明する。情報収集の方法など進め方は自己判断とするが、協働(意見参照・比較、意見交換、アドバイス、議論等)の重要性は強調して説明する。また、必要に応じて生成 AI を活用することも有効であることを伝える。 ・スプレッドシートに記載された個々の学習者の考えを把握し、考えを形成することが難しい生徒へ支援を行う。 ・協働のタイミングを適切に判断するよう言葉かけを行う。 ・フォームで回答させ、全体傾向の変化を学習者に情報提供する。	
	・本時の問いについて、現段階での考え(意識度)を10段階で表現する。 【本時の問い】「私たちは生成 AI を積極的に活用すべきなのだろうか」 ・予備調査の結果から、生成 AI に係る所属集団の意識度を把握する。 ・学習の流れを把握する。	個人		
終末 15分	単元全体に関わる 問いの解	自由選択	・これまでの事前学習内容を簡単に説明する。 【「単元全体に関わる問い」の解に導くための問い】君たちは、どのような学習者でありたいのか ・問いに対する解を形成し、スプレッドシートに記入する。 【単元全体に関わる問い】「私たちと生成 AI の関係として望ましいあり方は、どのようなものなのだろうか」 ・単元全体に関わる問いである「私たちと生成 AI の関係として望ましいあり方は、どのようなものなのだろうか」に対する解を形成し、スプレッドシートに記入する。 【期待したい学習者が形成する考え】 ・生成 AI を「多様な他者」として受け入れ、その危険性を理解しつつ、適切に活用することが大切であることに気付いている。 ・「参考の一つに過ぎない」ことが十分に認識できている。 ・最後は自分で判断するという基本姿勢が根付いている。 ・使い方によっては、自己の成長を阻害する可能性があることを理解している。 ・資料(柳広柏岡副校長作成記事「ICT教育」) ・このような解の形成ができた場合、単元の目標に到達したものと授業者は判断する。	【思】 スプレッドシート 記載

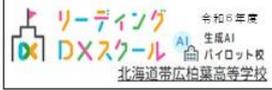
(3) 教科での活用例

児童生徒の学びにおいて生成AIを使うことが目的になってはいけません。学習指導要領に示されている資質・能力を育成することや、教育活動の目的を達成するといった観点から効果的であることを確認した上で利活用する必要があります。

〔高等学校の実践：北海道帯広柏葉高校〕

国語

○ 科学に関する評論を読む授業
文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めていく。



○ 内容解釈
・ 科学に関する文章を読み、論理構成を意識しながら筆者の意見の内容を解釈する。

○ 自己表現の確認と修正
・ グループ内の意見やAIのアドバイスを参考に下書きを修正し、表現をより確かなものにする。

○ 「私たちは科学とどう向き合っていくのだろうか。」について**生成AIに意見を求める**。生成AIの考えと自分たちの考えとを比較し、考えを広げたり深めたりする。

○ 「私が筆者に伝えたい、私なりの科学との向き合い方」というタイトルで筆者に向けてレポートを書く。作成した文章を**生成AIに校正**させ、より適切に自分の考えが伝わるよう表現を工夫する。



国語で的確に理解し、効果的に表現すること

生成AIの使用により

最適化・高度化

美術

○ 絵画の下書きを作成する授業
生成AIで画像を分析し、自分の作品を客観的に見直し、表現をより豊かにしていく。



○ グループ内で作品の講評をし、意見を交換する。
・ 自分の下書きについて説明したり、他者の下書きについて感じたことや考えたことを述べたりする。

○ 生成AIによる画像分析
・ **生成AIに**、自分の下書き（画像データ）を読み込ませ、テーマ性・構図・光と影・動き等の表現について質問し、**フィードバックをもらう**。

○ 生成AIによる画像作成
・ **生成AIに**、自分が下書きを作成した際に意識したこと（テーマ性・構図・光と影・動き等）を入力し、**画像を生成する**。
・ 生成された画像を鑑賞する。

○ 自己表現の確認と修正
・ グループ内の意見やAIのアドバイスを参考に下書きを修正し、表現をより確かなものにする。





鑑賞した改善点を取り入れた作品です。光と影、建物のディテール、スピード感を強調し、運動感あるシーンに仕上げました。何か追加の調整や変更点があれば教えてください。

感じ取ったことや考えたことなどを基に発想し構想すること

生成AIの使用により

高度化・多面化

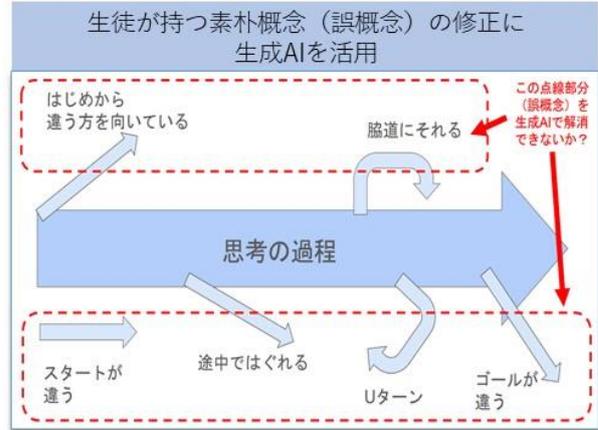
理科

- 進行波の反射を観察し、その性質を理解する授業
媒質の端では、端の状態に応じて波が反射し、入射波と反射波を重ね合わせた波形が観察できることを見だして表現する。



- **生成AIと壁打を行い、前時の学習を振り返る。そのやりとりを各自Googleドキュメントに貼り付けて、GoogleClassroomに提出する。**

- パルス波が媒質の端（自由端と固定端）に達した後、どのようになるかを予想する。
- シミュレーションを観察し、自分の予想と比較する。
- 反射中の波形について、周囲とディスカッションしながら、説明の方法を考え、表現する。
- **ディスカッションで出された考えが正しいかどうかを生成AIに質問、確認する。**
- 波の反射についての説明を聞き、整理する。



基本的な概念や原理
及び法則を系統的に
理解すること

生成AIの使用により

最適化

(生成AIが場面に応じて教師役として、多様な他者として機能したことで、学習者は自己調整しながら学びを深めることができた)

〔中学校の実践：利尻富士町立鶯泊中学校の実践〕

国語

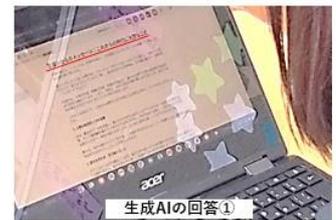
- 文章を批判的に読み、自分の考えまとめる授業
人間と人工知能との関わりについて述べた2つの文章を読み、協働的な学びを通して「これからの時代に大切なこと」を考え、まとめる。

先進的な学校の実践事例



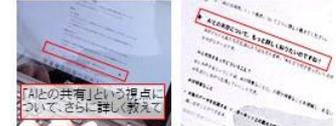
- 筆者の主張のまとめ・確認
・教科書や前時の学習内容を踏まえ、クラウド上のワークシートに2名の筆者が主張する「これからの時代に大切なこと」をまとめる。
・仲間のワークシートをクラウド上で参照し、筆者の主張を確認する。
- **生成AI (Gemini) との対話**
・生成AIが作成した「これからの時代に大切なこと」の文章を読む。
・筆者の考えや生成AIの回答について、理解・納得できなかったこと、疑問に思ったことなどについて、生成AIに繰り返し質問（壁打ち）する。
・生成AIの回答に納得し大切だと思った内容をワークシートにまとめる。
- 対話的な学び
・仲間とワークシートにまとめた内容を交流し、生成AIに質問した内容、大切だと思った回答やその理由について仲間と交流し、自分の考えを広げたり、転換したりする
- 考えのまとめ
・「これからの時代に大切なこと」について、ワークシートに自分の考えをまとめる

*前時の学習
「人工知能との未来」と「人間と人工知能と創造性」の2つの文章を読み、事実と意見、筆者の主張を整理するなど、論理の展開の仕方を探る。



生成AIの回答①

回答①への質問の入力 → 生成AIの回答②



*次時の学習
自分の考えを、他者の考えと比べ、広げたり深めたりする。

文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えること

生成AIの使用により

多面化・高度化

III FAQ

Q 1 教職員が学校の指導者用端末や校務用端末で生成AIを利活用してもよいのですか。

- A 道立学校の教職員は、令和6年(2024年)10月16日付け教ICT第361号通知「生成AIサービスの指定の追加について」に記載の手続き終了後に生成AIを利活用できます。
- *市町村立学校については、各自治体が定める情報セキュリティポリシーに則り、判断することが求められますので、市町村教育委員会に確認しましょう。

Q 2 児童生徒が授業等で生成AIを利活用する場合も、教職員と同じ手続きが必要ですか。

- A 教職員と同じ手続きをする必要はありませんが、児童生徒に授業等で生成AIを利活用させる際は、次のことを必ず実施しましょう。
- ・保護者の同意を確認すること *教職員が提出するチェックシートの提出にあたります
 - ・事前学習を実施すること *教職員が視聴するオンデマンド動画の受講にあたります

Q 3 全ての児童生徒が授業等で生成AIを利用してもよいのですか。

- A 各学校設置者が定める情報セキュリティポリシーだけでなく、生成AIツールによっては、「13歳以上であること、18歳未満の場合は保護者同意が必要」等の利用規約を設けていますので、必ず確認し、遵守しましょう。
- また、児童生徒が生成AIを利活用する場面を想定し、事前に生成AIの仕組みや利便性・リスク、留意点など生成AI自体を学ぶ学習、生成AIとの対話スキルやファクトチェックの方法など生成AIの使い方を学ぶ学習等を必ず行いましょう。

Q 4 小学校段階の児童に授業等で生成AIを利活用させるかどうかを検討する際、どのような点に留意したらよいですか

- A 教師による生成AIとの対話内容を数多く提示したり、生成AIに関する理解や体験を積み重ねる学習を十分に行ったりするなど、情報モラルを含む情報活用能力を育成していく中で、例えば、「生成AI自体の性質やメリット・デメリットなどの基本的な事項を理解することができるか」、「生成AIによる生成物をそのまま自己の成果物として使用することは自分のためにならないなど、生成AIについての冷静な態度が養われているか」といったことなどに留意する必要があります。

Q 5 生成AIによって出力された著作物等を利用することは、著作権上、問題ないのですか。

- A 著作権は「思想又は感情を創作的に表現した」著作物を保護するものであり、単なる単語やデータ(事実)やアイデア(作風や画風等)は著作物に含まれませんが、著作権法に定める権利(複製権や公衆送信権等)の対象となる形で他人の著作物を利用(複製やアップロード等)する場合には、原則として著作権者の許諾が必要です。
- 一方、学校においては、授業の過程における複製についての権利制限規定(著作権法第35条)により許諾なく著作物の複製や公衆送信が可能とされているため、この規定の範囲内であれば、教師や児童生徒が生成AIを利活用して生成したものが、既存の著作物との類似性及び依拠性があるものであっても、著作権侵害とはならず、著作権者の許諾なく、授業の過程において利用することが可能です。

Q 6 児童生徒が学習活動等で生成AIを利活用することは、情報活用能力の育成につながりますか。

- A 生成AIは加速度的に普及・発展しており、児童生徒もスマートフォン等のデバイスで、普段利用する検索エンジン等に組み込まれた生成AIの出力結果を意図せず利用していることが考えられるなど、様々な形で生成AIが社会生活に組み込まれつつあります。
- このような状況を踏まえ、生成AIが社会の中で果たす役割や影響、生成AIに関する法・制度やマナー等について、科学的な理解に裏打ちされた形で理解することや、問題の発見・解決等に向けて生成AIを適切かつ効果的に利活用し、情報社会に主体的に参画する態度を身に付けていくことができるよう、情報モラルを含む情報活用能力の育成を一層充実させていく必要があります。

IV 参考資料

(文部科学省等)

- ・文部科学省「初等中等教育段階における生成 AI の利活用に関するガイドライン (Ver.2.0) 令和 6 年 12 月」
https://www.mext.go.jp/a_menu/other/mext_02412.html
- ・文部科学省「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」(令和 6 年 1 月)
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1397369.htm
- ・文部科学省「教育データの利活用に係る留意事項 (第 2 版)」
https://www.mext.go.jp/a_menu/other/data_00007.htm
- ・文部科学省「リーディングDXスクール 指定校実践事例・動画 生成AIの活用方法に関する教育実践」
<https://leadingdxschool.mext.go.jp/achieve/ai/>
- ・文化庁「AI と著作権に関する考え方について」、「AI と著作権に関するチェックリスト&ガイダンス」
<https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/aiandcopyright.html>
- ・文化庁「インターネット上の海賊版による著作権侵害対策についての相談窓口」
<https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/kaizoku/index.html>
- ・文化庁「文化芸術活動に関する法律相談窓口」
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/kibankyoka/madoguchi/index.html
- ・個人情報保護委員会「生成 AI サービスの利用に関する注意喚起等」(令和 5 年 6 月 2 日)
https://www.ppc.go.jp/news/careful_information/230602_AI_utilize_alert/

(道教委)

- ・令和 6 年(2024 年)10 月 16 日付け教ICT第 361 号通知「生成AIサービスの指定の追加について」
<http://www.ictkensyu.hokkaido-c.ed.jp/ict/ai/241016ICT361.pdf>
- ・令和 6 年(2024 年)12 月 26 日付け教ICT第 499 号通知「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」の改訂について
<http://www.ictkensyu.hokkaido-c.ed.jp/ict/ai/241226ICT499.pdf>
- ・令和 7 年(2025 年)1 月 31 日付け教ICT第 548 号通知「北海道立学校 学習活動等における生成AIの利活用に係るガイドライン」について
<http://www.ictkensyu.hokkaido-c.ed.jp/ict/ai/250131aiguide.pdf>